

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	建築生産小委員会	主 査 名：古阪 秀三 就任年月：2004 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築経済委員会	委員長名：眞嶋 二郎
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (簡条書き)	<p>設置目的 本小委員会は、建築生産に関する技術・技能上、仕組み制度上の諸問題を研究・議論することを目的としている。</p> <p>このため、建築生産シンポジウム、建築生産ワークショップ、建築生産パネルディスカッションを、それぞれ年 1 回開催し、その企画・運営を担当している。</p> <p>各年度活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2006 年度：2007/3/7 建築生産パネルディスカッション開催予定 ・ 2007 年度：7/19,20 建築生産シンポジウム開催予定 11/7 建築生産ワークショップ開催予定 3/13 建築生産パネルディスカッション開催予定 	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：あり</p> <p>(主査)古阪秀三(京都大学) (幹事)大内仁(戸田建設)、斎藤隆司(日本郵政公社)、安藤正雄(千葉大学)、浦江真人(東洋大学)、遠藤和義(工学院大学)、大沢幸雄(大成建設)、金森茂(サポビル)、蟹澤宏剛(芝浦工業大学)、嘉納成男(早稲田大学)、田沢良一(ｲﾝﾂ)、永易修(ﾌﾞﾀ)、平沢岳人(千葉大学)、山崎雄介(清水建設)、湯浅洋一(竹中工務店)</p>	
設置 WG	設置なし	
2006 年度予算	50,000 円	ホームページ公開の有無：あり 委員会 HP アドレス： http://news-sv.ajj.or.jp/keizai/seisan/

項 目	自己評価
委員会開催数	10 回(年度内計画を含む)
刊行物	なし
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 22 回建築生産シンポジウム(7/27<木>-28<金>、建築会館ホール) 参加者数 119 名 資料：「第 22 回 建築生産シンポジウム論文集」 2. 第 4 回建築生産ワークショップ：建築現場技術者の流動化と教育問題(11/8<水>、建築学会会議室、生産管理小委員会との共催) 参加者数 19 名 資料：「建築現場技術者の流動化と教育問題(学会大会研究協議会資料)」 3. 建築生産パネルディスカッション：建設産業政策大綱の見直しと今後の建設産業(2006.3/7 <水>、建築会館ホール) 参加者数 34 名 資料：「建設産業政策大綱の見直しと今後の建設産業」
大会研究集会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 建築経済部門研究協議会：「建築現場技術者の流動化と教育問題」(9/8<金>、神奈川大学、生産管理小委員会との共同担当) 参加者数 74 名 資料：「建築現場技術者の流動化と教育問題」
対外的意見表明・パブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 建築生産シンポジウム：広範囲の分野の研究者・実務者からの最新の建築生産に関する発表を通じて情報交換を行うことができた。 2. 建築生産ワークショップ：生産管理小委員会とともに、建築現場技術者の流動化と教育問題について議論を深めた。 3. 建築生産パネルディスカッション：2006/3/7 開催予定(生産シンポでの注目論文のアンコール発表と「建設産業政策大綱の見直しと今後の建設産業」というテーマで、論文発表と討論を行いたいと考えている。)

委員会活動の問題点 ・課題	・ 2006年度はそれぞれの催し物や大会での研究協議会において内容の濃い発表や討議を行うことが出来たが、参加人数においては十分満足のいくものではなかった。次年度からは、生産管理小委員会と一緒にあって関係諸方面へのアピールと内容の更なる充実を行い、多くの参加者を集めたいと考えている。
その他の活動状況・ 研究成果	特になし

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。